

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200318		
法人名	株式会社 日本ライフデザイン		
事業所名	花と幸せ家族		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町154-5		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に施設があります。施設内には広い庭があり、リビングからも梅の木や柿の木がみえ季節を感じる事ができます。また、庭には畑もあり里芋やサツマイモを育て収穫し、食事作りや焼き芋をしておやつに提供して楽しんでいます。サツマイモのつるを使用したクリスマスリースや正月飾りを作ったりレクでも楽しんでいます。お花を植えたり、BBQをしたり庭を散歩したり外の空気や土いじりができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地内には菜園があり、野菜や花を育てている。収穫したサツマイモで利用者と一緒におやつ作りをしたり、サツマイモの弦を乾燥させて、クリスマスのリースや正月飾りを作るなど、日々の生活に潤いを持たせるよう工夫している。また、季節が良い時期は、バーベキューをして楽しむなどしている。理念を「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」としており、職員に具体的にケア指針を示して、職員が毎日のケアに繋げることが出来るように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に職員の目に入りやすい事務所や職員のロッカールーム、掲示物にて理念を共有し、自らが受けたいと思う医療と福祉を常に思い行動をしている	「自らが受けたい医療と福祉の創造」を理念とし、事務所、更衣室に掲示して共有している。また、新規入職者研修で伝えるとともに、ミーティングで繰り返し共有して、日常のケアに繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。セラピー犬を連れて施設の回りを散歩したり触れ合うなどして交流をおこなっていました。	自治会に加入しており、自治会活動やお祭りに参加しているが、現在は感染予防のため自粛している。自治会長から会報などにより、地域の情報をもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加したり買い物、散歩を通じ近隣の方に挨拶をしたり理解をいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響があり、開催が出来ませんでした。	現在は開催していない。	書面開催として、議題を示し意見をもらって、ホームで検討してフィードバックするなど、双方向の会議を検討してもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和4年1月末に施設にてコロナ感染が発生した際にはアドバイス等を頂きました。また終息した後も連絡を取り協力関係を築いています。	市の担当課には、現在は特にコロナ対策などについて、メールや電話で相談しており、指示やアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画をたてて研修を行っています。職員に周知しています。玄関の施錠については契約時にご家族に説明し理解して頂き了承を得ています。	年間計画を立て、身体拘束について研修を実施している。玄関は、安全確保の為施錠していることを契約時に説明している。現在、身体拘束の事例はない。また、指針を作成する準備をしている。	指針を作成するとともに、身体拘束廃止委員会の開催が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画をたてて研修を行っています。職員に周知しています。法人内、外部の研修にも積極的に参加しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中にも後見人がいるので、アドバイスを頂いたり、相談や施設での様子などの報告をし連携、協力体制を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は契約書、重要事項説明書を一つ一つ説明し納得をして頂きながらサインをして頂いています。その都度、疑問や不安がないか確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回お客様アンケートを実施。また、御家族からの電話や施設に来た際に意見や要望などを伺って運営に反映させています。アンケートをもとに対策や改善策を検討しています。	年1回、利用者家族にアンケート調査をおこない、要望の把握に努めている。また、面会来訪時や電話で意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロア会議、全体会議を開催し意見や提案を吸い上げています。意見や提案などを誰もが発言しやすい雰囲気作りを大切にしています。	毎月開催するフロア会議や全体会議で職員の意見を聞いている。夜間のトイレ誘導などについて、利用者にとって何がよいのか意見交換をして、対応改善につなげた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にキャリア段位制度があり、各自が日々努力している事や向上心、また、やりがいに繋がるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、法人外の研修には個々の能力、力量に合わせた内容の研修に参加しています。また、施設内研修でも講師になり経験する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所とZOOMを利用してネットワーク作りをおこなっています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス時に不安があり相談されます。お話の中から興味や関心がある事を見つけ安心してもらえるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話の中で困っている事、不安な事を察し、施設で出来る事、事例等があればお話をし不安を少しでもなくし安心してもらえるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況、状態を把握しまず何が優先かを考え、家族、ご本人と相談しサービスの利用を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の楽しみ、出来る事、出来ない事を見極め出来ることを一緒におこなっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望も十分に理解し、生活の様子や体調などの変化などをご報告、相談しご家族の方のご協力を頂きながら一緒に支えている関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響があり、面会は控えて頂いていますが、窓越しでの面会や電話でお話をしたりライン電話でお話をしています。	コロナ禍で制限しているが、利用者が家族との外出、外食、墓参りなどを希望する場合は、実現できるように支援している。現在は、家族の面会は予約制とし、窓越しで実施している。また、電話の取次ぎや手紙の受け渡しも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お席の配置を配慮しています。会話にも職員が間に入りお話しがしやすいように環境や雰囲気工夫をしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、困ったことがあったらいつでも気軽に相談、連絡いただけるようにお声をかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の活動の中や会話などで本人の思いや希望を聞き取り、ケアプラン作成時の参考にしている。	利用者一人ひとりに合わせて話をし、意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や動作から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況などをご本人やご家族などから出来る限り聞き取り、個別表に記載し把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身状態が違うため、日々の変化など記録をし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングなどで状態の確認をし介護職員、計画作成、管理者、本人と話し合い現状にあった介護計画書を作成している。	月1回のフロアミーティングの中でカンファレンスをおこなっており、居室担当職員から情報をもらっている。それらを踏まえ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。6か月ごとに見直すとともに、状況に変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記載したり、申し送りノートに記載したりし情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な状況に柔軟に対応できるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の回りに散歩に出掛けたりした際に近隣の方にも理解してもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医を選択しています。24時間オンコールで緊急時対応をしています。必要な場合は他の医療機関を受診。かかりつけ医と専門医療機関との医療連携も築いています。	ホームの協力医は24時間対応する体制となっている。専門医受診については、協力医の紹介状を持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護が定期訪問をし入居者様の健康状態などを確認し、アドバイスを頂いています。必要に応じ、かかりつけ医に報告しかかりつけ医からの指示もあり、入居者様の健康管理をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側からもどの段階まで回復したら施設に戻れるのか、退院できるのか相談があります。カンファレンスに参加し状態の確認をし、ソーシャルワーカーとも常に連絡が取れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化及び看取り介護についての同意書について」説明をし同意を得ています。重度化した場合は医師と連携し支援をおこなっています。	入居時に「重度化及び看取り指針」で説明し、同意を得ている。重度化した場合や看取りの時期には、医師が説明して家族と話し合い、体制を整えて支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時はマニュアルに沿っておこなっています。実際に119番に電話したり実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をおこなっています。水災害対策としては備蓄品チェック表で管理したり、マニュアルも作成しています。社内にも防災委員がいて近隣施設と連携出来るようにしています。	年2回、消防、避難訓練を実施している。備蓄品として食料や飲料水を5日分を備蓄している。発電機も同法人の他施設から借りることができる。事業継続計画(BCP)は、法人からの指示で作成中である。	継続計画(BCP)を作成中なので、完成が待たれる。また、昨今は想定外の災害も多発していることから、様々な災害を想定した訓練も期待される。

## 【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けをしています。入居者の羞恥心や尊厳を守り、常に自分が嫌な事、家族がされたら嫌な事を考えて対応しています。	日常生活の中でも、利用者の尊厳を大事にした支援を心がけている。声掛けについては、職員同士で注意し合える関係が出来ている。また、写真などの使用については、利用者・家族の同意を得ることとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に出来る限り添えるようにしています。ご本人のペースに合わせることを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は電動髭剃りで髭剃りをしています。女性は洗面台の前でヘヤーブラシを持ちブラシをかけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶入れ、食器洗いなど出来ることをおこなっています。おやつ作りに参加したり楽しみになるように支援しています。	普段は、食材業者が提供する献立に従って職員が調理をしている。希望によっては献立を変更するなど、臨機応変に対応している。また、おやつ作りやバーベキューなど、楽しみをつくるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託業者に依頼しバランスの取れた食事を提供しています。状態によっては形状も変更しています。食事量も水分摂取量も記録して確認できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守り、介助をしています。義歯のお手入れ、洗浄剤にいれ保管し、口腔内、磨き残しがないか食べ物が残っていないか確認しいつもきれいな状態にしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表で個々の排泄のタイミングでトイレ誘導、声掛けをしています。リハビリパンツを使用している人がほとんどですが、出来る限りトイレでの排泄の支援をおこなっています。	トイレ誘導を基本にしている。利用者一人ひとりのタイミングを見て、声掛け誘導をしている。また、夜間は2～3時間おきに巡回して、様子を見て個別にトイレ誘導している。声掛けの際は、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認しています。個々の排便のペースを把握し水分を多くとるように促したり、訪問医や訪問看護、薬剤師に相談し指導を受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2から3回のペースで入浴しています。入浴のお声掛けをした際に拒否の方はいません。入浴時は職員と入居者のコミュニケーションがとれ大切な時間になっています。	週2～3回の入浴支援をしている。入浴中は、職員は利用者とは会話をするなど、入浴を楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、横になりたいという方には居室に行かれて休まれています。長時間にならないように状況によりお声をかけています。居室の温度や湿度は調整をし快適に過ごせるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報は常に確認できるようにしています。状態に変化があった場合は訪問医、薬剤師に相談、報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ること、出来ない事を見極め、役割を見つけて提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響により家族との外出はできませんが、施設の周りを散歩したり庭に出たり外の空気に触れる機会を作っています。	コロナ禍であり、職員が買い物に行く時に利用者が車に同乗するなどして、気分転換のドライブをしている。また、ホームの庭で畑仕事をしたり、デッキで洗濯物を干すなど、外気にあたる機会を持つようになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭は預かっていません。買い物した際は施設の方で立て替えています。ご家族の方にも説明し了承を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご兄弟からの電話があった場合やご家族に電話した際は電話に出て頂きお話をしています。施設の方に手紙が届いた際にはご本人様にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日差しが入りとても明るいです。窓からは梅の木や柿の木がみえます。季節が分かるように廊下、リビングには壁画を飾ったり、玄関には季節ごとにお花を植えています。月1回は季節を感じられるようなレクを行っています。リビングにいますと調理している匂いも感じることができます。	共用空間は整理整頓されている。リビングはキッチンに隣接しており、食事の準備などの様子が伝わってきて家庭を感じさせる。大きいソファも置かれ、利用者が寛げる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分はお席を決めてお話をしやすいように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のものやご家族の写真、今まで使っていたものをお持ちいただき安心できるようにしています。	居室にはクロゼットを設置しており、かなり収納ができるようになっている。利用者は使い慣れた品を持ってきており、生活感のある居室をつくるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはお名前、トイレの場所、リビングの椅子には個々の名前を書いています。安全に移動できるように廊下には手すりがあります。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと